

第三者意見

鹿島グループ(以下、同グループ)の第三者意見を執筆するにあたり、ステークホルダーである社員の方々と意見交換をさせていただきました。そこでの意見なども踏まえ、同グループのCSR報告書2011について、以下に第三者意見を申し述べます。

高く評価できる点

世界の持続可能な発展を支える「省エネ・省資源から効エネ・少エネ」活動で、同グループの「守りと攻めのCSR」がよく開示されています。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、地震・津波、エネルギー対策について土木・建設業におけるCSR活動の重要性を社会に再認識させることとなりました。その原因が自然災害とはいいながらも、被害を最小限度に食い止めることができなかったのは日本社会で今後大きな課題を残しました。その意味から世界が土木・建設業やエネルギー関連企業の今後の対応策に注目しています。

今回発表した同グループのCSR報告書では、その一つであるエネルギー対策について特集が組まれており、ゼロ・エネルギー・ビル化の実現や、太陽光で新エネルギーを生み出す創エネルギーなど「省エネから効エネ」への転換も含めて、守りと攻めのCSR活動を知ることができます。

社員の方々の意見にもありましたが、企業経営と環境対応が一体化しビジネスに組み込まなければいけない時代でもあります。社会が求める価値と、同グループのコア・コンピタンスと



いわれる土木・建築における独自能力(強み)の交点をめざす活動が戦略的CSRであり、それを全社員が共有することで、「鹿島らしいCSR」が実現可能となります。

昨年の第三者意見で提案して今年の報告書で実践いただいた「2010年度の実績と2011年度の課題」は、CSRのPDCAを通じた継続性の意味からも有意義なものです。

今後の改善に期待する点

1.同グループの安全・安心に対する、社会へのより一層の説明責任の遂行と特集記事の掲載を期待します。

前述のとおり、社会の関心事の一つである地震・津波など災害対策についても、次年度の特集記事などで情報開示されることを期待します。

水尾 順一

駿河台大学大学院教授・
ロンドン大学客員研究員博士(経営学)



略歴

東京工業大学大学院兼任講師、資生堂社友、日本経営品質学会副会長、日本経営倫理学会常務理事他、著書「逆境経営 7つの法則」朝日新書、「CSRで経営力を高める」東洋経済新報社、など

その前提として、安全・安心への取り組みをいま以上に積極的に打ち出すことが必要です。同グループの本業を通じたCSRの中で「良質なインフラや建物・サービスの提供」のための5つの要素が掲げられていますが、その一つとして「安全・安心、地域社会との共生」のように、明確に記すことも今後の検討課題になります。

また、社員の方々とのダイアログの折にも意見をいただいたのですが、CSR報告書は、ニュース性と継続性のバランスをとることも重要です。特にニュース性という視点から、今回の東日本大震災を契機として社会の安全・安心に対する期待感が、より一層強くなっています。その意味でも、5つの要素と一体化させながら、特集記事で安全・安心に対する同グループの姿勢をより積極的に開示されることを期待してやみません。

第三者意見を受けて

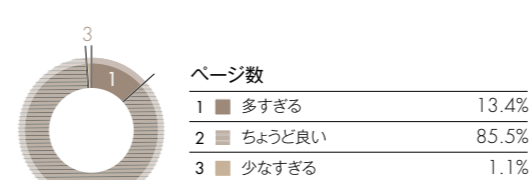
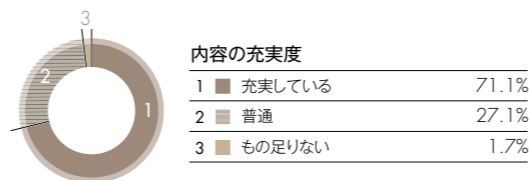
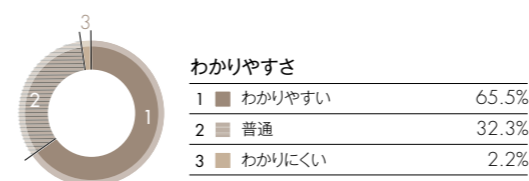
広報室長 岩本 豊

水尾先生、貴重なご意見を賜りありがとうございました。今回は、先生との意見交換をさせて頂き、改めて鹿島の取組みを振り返る良い機会となりました。「攻めと守りのCSR」についてさらに全社の意識を高め、日々の業務で遂行してまいりたいと思います。また、ご指摘いただきましたグループ一体となった安全・安心に対する説明責任の遂行と特集記事の掲載について、今年度もさらに積極的に進めていきたいと考えています。今後ともステークホルダーの皆さんのご意見と真摯に向き合い、コミュニケーションの向上を図っていく所存です。

「鹿島CSR報告書2010」のアンケート結果

2010年度は、CSR報告書添付のアンケート用紙への記入もしくはホームページ上からの回答で、社外206名のステークホルダーを含む合計462名から読者の声を受け取りました。これらをふまえ、2011年度以降の報告書作成に活かしていきます。

報告書全体の印象



関心を持った項目

1. 特集
2. 環境を「守る」から「創る」へ
3. 社長メッセージ
4. 現場の一日と安全管理
5. プロセスごとの「守る」と「創る」



説明が不十分と感じた項目

説明が不十分と感じた項目	改善点
1.地域社会との共生: 地域社会貢献	現場が地域の一員として取り組んでいる内容や、建設業を活かした取組みを項目に分けて掲載しました。(該当40~45ページ)
2.ステークホルダーとのコミュニケーション: 社外からの評価	各表彰がどのような点で評価されているかについて掲載しました。
3.働くことに誇りを持てる会社: 人材を資産に	技術者だけではなく、鹿島の人材育成への考え方を示し、フロー図で幅広い年次での育成イメージが伝わるようにしました。

組織図



国内主要グループ会社

設計・コンサルタント 株式会社イリア 株式会社アルモ設計 株式会社アルテス リテックエンジニアリング株式会社	金融・保険・サービス かたばみ興業株式会社 鹿島リース株式会社 鹿島サービス株式会社 株式会社カジマアイシーティ
調達・施工 大興物産株式会社 ケミカルクラウト株式会社 鹿島道路株式会社 カジマカトロエンジニアリング株式会社 株式会社クリマテック 日本海上工事株式会社 カジマクアアテック株式会社 カジマ・リノベイト株式会社	文化 株式会社鹿島出版会 株式会社カジマビジョン 株式会社八重洲ブックセンター ホテルレジャー 株式会社森林公園ゴルフ倶楽部 鹿島リゾート株式会社 鹿島軽井沢リゾート株式会社
運営・管理 鹿島建物総合管理株式会社 鹿島東京開発株式会社 イースト不動産株式会社	